



山根 宏之 理化学研究所 放射光科学総合研究センター 研究員
(前 光分子科学研究領域 助教)

分子研の思い出

やまね・ひろゆき / 2004年3月 千葉大学大学院博士後期課程修了、博士研究員を経て、2008年4月 分子科学研究所・光分子科学研究領域(小杉グループ) 助教、2017年9月より現職。SPring-8の“SP”はSuper Photon の他にSolving Problemを意味しているらしく、後者の立場からのアクティビティを求められている。



2007年11月末、私はアメリカのボストンで開催されていた学会に参加しており、分子研人事面接の前日早朝に余裕を持って帰国して、面接にのぞむ予定でした。ところが、ボストン発の飛行機が離陸直前に電気系トラブルで遅延し、サンフランシスコ名古屋便に乗り継ぐことができず、成田経由で名古屋に到着したのは面接前日の深夜でした。心身ともに疲弊した状態での面接プレゼンを終え、駄目だろうなあと思ってメールを開くと、内定の連絡が届いていました。院生・ポスドク時代にもUVSORを利用していましたが、本格的に放射光施設に腰を据えた研究ができることになり、期待に胸を膨らませたのが今から10年前の話です。

結局9年半も在籍した分子研では、ビームライン建設、蓄積リングのDecay運転からTop-up運転への移行

や低エミッタンス化という放射光源の進展と、表からは見えにくい地道な調整作業を目の当たりにすることができ、ビームライン最下流部に設置される軟X線発光分光装置や光電子分光装置の高度化や新規開発を行う機会も頂きました。特に、UVSOR技術職員の堀米さんには装置開発の面で非常にお世話になり、多くのことを学ばせて頂きました。自家製の装置を用いた研究の面では、私自身の興味に加えて、小杉先生より「山根君が興味を持って研究の助けになれば」と、少し分野の異なる研究者を共同研究相手として紹介して頂きました。装置を壊されて愚痴ることもありましたが、お陰様で守備範囲を広げることができ、いろんな成果を挙げることもできました。また、分野の垣根を超えた多くの若手研究者や先生方とお知り合いになれたことも大きな

財産となりました。

私だけでなく子供たちも育ててくれた岡崎は、自然・文化・インフラが程よく集約された住みやすい街でした。現所属の理研SPring-8の周りは熊の目撃情報がメールで流れるほどの大自然です(住居は姫路ですが)。そのような大自然の中、これまでのテーマとは少し趣の異なる新しい研究を開拓すべく、手探りの日々を過ごしているところです。こうして分子研での生活を振り返ると、自由度の高い分子研助教の中でもかなり自由に研究させて頂いたと実感しています。生意気な私の分子研での研究生生活を支えて頂いた小杉先生とUVSOR施設の皆さんは勿論、多くの分子研関係者の方々に改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。